特定非営利活動法人 碧いびわ湖

活動レポート＆事業ビジョン

2019 年度版

子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖

碧いびわ湖の活動へのご理解ならびに参加と協力を賜り、誠にありがとうございます。この一年、お世話になった皆様への感謝を込め、２０１８年度の活動成果と今後の事業ビジョンを記しました。旧環境生協から事業を継承して今年で１０年。草の根自治の変わらぬ心を引き継ぎ、子どもたちが安心と希望を胸に育っていける社会づくりに取り組みます。引き続きのご参加とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。　２０１９年５月　代表理事　村上 悟

【地域づくり】　自然のなかで子どもと育つ

子どもたちは、自然の中で、ワクワク、ドキドキ！ときに、キケンもとなりあわせ―――そんな環境で、たくましく生きる力を育みます。大人たちも、主体的に運営に参加してくれて、協力しあい、信頼関係をきづきます。

野洲川下流部、守山市中洲地区での体験学習。異年齢の子ども集団。大人たちも楽しんでいます！

あおいそらと森のおうちプロジェクト（ASMO）
草津市の草津川跡地公園　ai 彩ひろば、および、守山市立図書館にて、お母さんの居場所を開催しました。

守山市中心市街地を流れる吉川川（あまが池親水緑地）
今年３月には、高校生と幼稚園児のコラボが実現。
小さな自然再生と水辺のまちづくりにチャレンジ！

●新しい仲間との出会いをつむぐ

碧いびわ湖と、こども園そら（草津）、ちいさいおうちようちえん（守山）、せた森のようちえん（大津・栗東）とのパートナーシップにより進めています。乳飲み子をかかえるお母さんのホッと一息つける場「あすもの日」を草津と守山で７回、開催しました。

●野洲川の川守りをつなぐ

野洲川下流部、守山市中洲地区にて、子どもたちが、川で遊び、学び、育つプログラムを、子育て中のお父さん、お母さんたちと、ともに運営しています。
川遊びに加えて、河道内に生えてくる樹木の伐採も行いました。

●科学的なアプローチで小さな自然再生

守山の中心市街地に、ほたるが自生する河川環境をつくるため、滋賀県立大学の瀧健太郎さん（碧いびわ湖理事）にご指導いただき、県立守山高校の生徒さんと一緒に活動しています。バーブ工と呼ばれる簡易水制を設置し、かつ、河川空間を自分たちで測量し、コンピューター上の３次元座標でプログラム。川の水の流れをシミュレーションして、ほたるの幼虫がすめる河床づくりにチャレンジしています。

＜数字で見る　地域づくり事業の成果＞

●小さな自然再生受託	１箇所	●講座受託	１講座・全４回
●講演・研修受託	１２件		

【住まいづくり】みんなでつくる暮らしの基盤

顔の見える仲間と協力し合って、身近な自然を活かした暮らしのできる住まいづくり・インフラづくりに取り組んでいます。プロの力を借りつつも、暮らす人々が主体となって自らつくり関わることを大切にしています。

「好きな暮らし、ひとつまみ。～お父さんも８割満足の休日～」古民家の壁塗り体験。（日野町）

オムロン野洲工場でのヨシを使った小屋づくり

「島の未来をつくる会」沖島のエネルギー自給を考える

●お父さんも参加できるWSを開催

11月から2月、「好きな暮らし、ひとつまみ～お父さんも8割満足の休日～」を5回シリーズで開催しました。碧いびわ湖での住まいづくりを実践された方のお宅を会場に、エディブルガーデンづくりと干し柿づくり、古民家の土壁塗りと日野菜漬け体験、竹林整備、庭木の剪定と味噌づくり、薪割りとヒンメリづくり、と、家族揃って暮らしを楽しむ一日を体験いただけました。冊子「ためになるオトコの休日」も発刊し、楽しみながら家族の役に立つ暮らしの提案をできました。

（滋賀県・地域エネルギー活動支援事業補助金を活用）

自治会館の防災設備として、雨水タンクを設置（湖南市・菩提寺）

●社員参加でヨシを使った小屋づくり

11月から12月にかけ、株式会社ラーゴさんからのご依頼で、株式会社オムロンさんの野洲工場のビオトープで、ヨシをつかった小屋づくりを担当させていただきました。基礎業者さん、大工さん、ヨシ屋さん、竹屋さん、kikitoさんとのつながりとワークショップのノウハウを活かし、地域の材料と人の力、そして社員さんの力を集めて、素敵な小屋ができました。

福祉施設での太陽熱利用設備の設置を今年も実施（高島市・元気な仲間）

●市民協同でのエネルギー自給の学習会

2月から3月にかけ、沖島町離島振興協議会と協力し、「島の未来をつくる会」を開催しました。講師の宝塚すみれ発電の井上保子さんから、市民発電所づくりの体験を基に、市民の協同とエネルギー自給により、市民主体の地域づくりが実現できることを学びました。

沖島で初となる薪ストーブの設置（汀の精）

＜数字で見る　住まいづくり事業の成果＞

●雨水タンク設置	7件	●太陽熱温水器設置	5件
●木質燃料ストーブ・ボイラー設置	3件	●その他リフォーム等工事	22件
●ワークショップ・学習会・体験会	7回		

【買いものづくり】 心が通う買いものをつくる

つくるひと、たべる人、はこぶひと、みんなが笑顔になれる、心の通う買い物づくりに取り組んでいます。使い終わった資源も再利用できるよう、循環の輪も守り育んでいます。

どっぽ村の大戸洞舎（おどふらしゃ）のみなさんが「森のようちえんえくぼ保育園」を訪問。（大津市）

京大農薬ゼミの省農薬みかん園で収穫体験（和歌山県下津）

Laque漆崎さんのワインが初出荷（東近江市愛東）

●お米を通じた子育てのつながり

８月に、どっぽ村で子育てについて語り合う会員交流会を開催しました。２０１８年に開園し、給食にどっぽ村のお米をお使いいただいている「森のようちえん・えくぼ保育園」からも保護者の方々がご参加いただけたことがきっかけとなり、12 月にはどっぽ村の大戸洞舎のみなさんがえくぼ保育園を訪問し、子どもたちや保護者の皆さんと交流する機会を持ちました。互いに子どもたちの育ちを支える親同士として、想いを共有することができました。

８月にはどっぽ村で会員交流会を開催。

●省農薬みかんの継承

2017 年末に生産者の故仲田尚志さんが急逝され、園の存続が危ぶまれた京大農薬ゼミの省農薬みかんでしたが、農薬ゼミのみなさんと共に、新たな生産者の大柿肇さんとの関係を構築し、継続することができました。あまいろ探偵団も訪問して収穫体験をし、あまいろだよりの特集記事ができました。

省農薬みかん園に新規就農の大柿肇さん。

●漆崎さんのワインが初出荷されました

2013 年から愛東で新規就農をされ、碧いびわ湖でもぶどうの共同購入をおこなってきた Laque の漆崎厚史さんが仕込まれたワインが、初めて出荷されました。夫婦で自分たちのワインをつくりたい、との就農時の想いが、６年越しで実現されました。

液体せっけん「ゆう」は、引き続きお母さんたちが手作り。クラウドファンディングの返礼品にもお使いいただきました。

＜数字で見る　共同購入事業の成果＞

お米購入量	5,248kg	省農薬みかん購入量	5,325kg
リサイクル粉せっけん購入量	3,137kg	←原料用廃食用油回収量	8,007L
リサイクル液体せっけん購入量	1,902L		
リサイクルトイレットペーパー購入量	10,467 袋	←原料用牛乳パック回収量	318,517kg
リサイクルティシュ購入量	4,477 袋		

子どもと湖が笑ってる未来へ

―― 11 年目のチャレンジ。安心を実感できる暮らし、命あふれる琵琶湖をめざして

「さっきチラシを置いてもらいに市の担当課に行ってきた。話を聞いてくれた職員さんが、話を聞いて“私達もこういう場所があるととても助かります”って言ってくれた。私にも出来ること、あるんやなぁ！って、胸をはれる気分になった。」

という報告メールが、あおいそらと森のおうち（ASMO）のメーリングリストに流れてきたのは、ミーティングがあった日の夕方。ミーティングでのほかのメンバーの話にピピピッときて、思い立って行ってみたとのことでした。報告を聞いた私も、なんだか、とっても満たされた気持ちになりました。ともに活動してくださるたくさんの仲間に感謝です！

（碧いびわ湖　常務理事・根木山恒平）

★碧いびわ湖になって１０周年！

さて、碧いびわ湖が、前身の環境生協から事業継承した 2009 年 8 月から、今年でちょうど 10 年を迎えます。1977 年にはじまる「琵琶湖のせっけん運動」を受け継ぐ市民組織として、この 10 年間、子育て世代の仲間づくりや、その他、さまざまなことにチャレンジしてきました。

実際のところ、失敗や、うまくいかないこともたくさんありますが、10 年前にはなかった、たくさんの子育て世代の仲間ができました。

私たちが望む暮らし、社会を、力をあわせてつくっていく。そのいとなみ、プロセスを大切にしたいと思っています。人それぞれ、いろんな思いがあり、事情もあり、自らが望むように行動することは、そんなに容易ではありません。まして、違いのある他者とともに行動することには、困難が伴います。でも、他者とのかかわりを通して、気づくことがあり、励まされ、自分ひとりではか

なわなかったことが実現することがあり、そこに大きな喜び、やりがいがあると感じています。

ひきつづき、碧いびわ湖における仲間たちとのチャレンジに、ご参加いただき、力を与えてくださいますよう、お願い申し上げます。

★NPO 法ができて 20 年の振り返り

ところで、昨年は、NPO 法ができて 20 年の節目の年にあたり、全国でこれまでを振り返り、今後の展望を語り合う機会がもたれました。私たちが参加した場で、語り合われていたことの中で、印象に残ったいくつかのことをご紹介します。

まず、この 10 年くらいでしょうか「ソーシャル・ビジネス」という言葉が盛んに言われるようになりましたが、そうした中で「NPO が企業化している」という批判的な指摘がありました。また、介護保険制度にもとづく福祉事業などがわかりやすい事例ですが、NPO も民間のサービス事業者として、一見、市場競争のなかに置かれつつ、反面、行政が規定する報酬単価などには、市場原理は働かない――つまり、そもそも採算のあわない事業の担い手として、低コストに人員を動員する受け皿になってはいないか、という問題提起もありました。さらに、行政との関係で言っても、行政から NPO への業務委託が増え、委託元と先という関係がつくられることで、本来は、人びとの自発的な組織であって、その声を行政に対して積極的に伝えていく NPO の果たすべき役割が発揮できていないという声もありました。

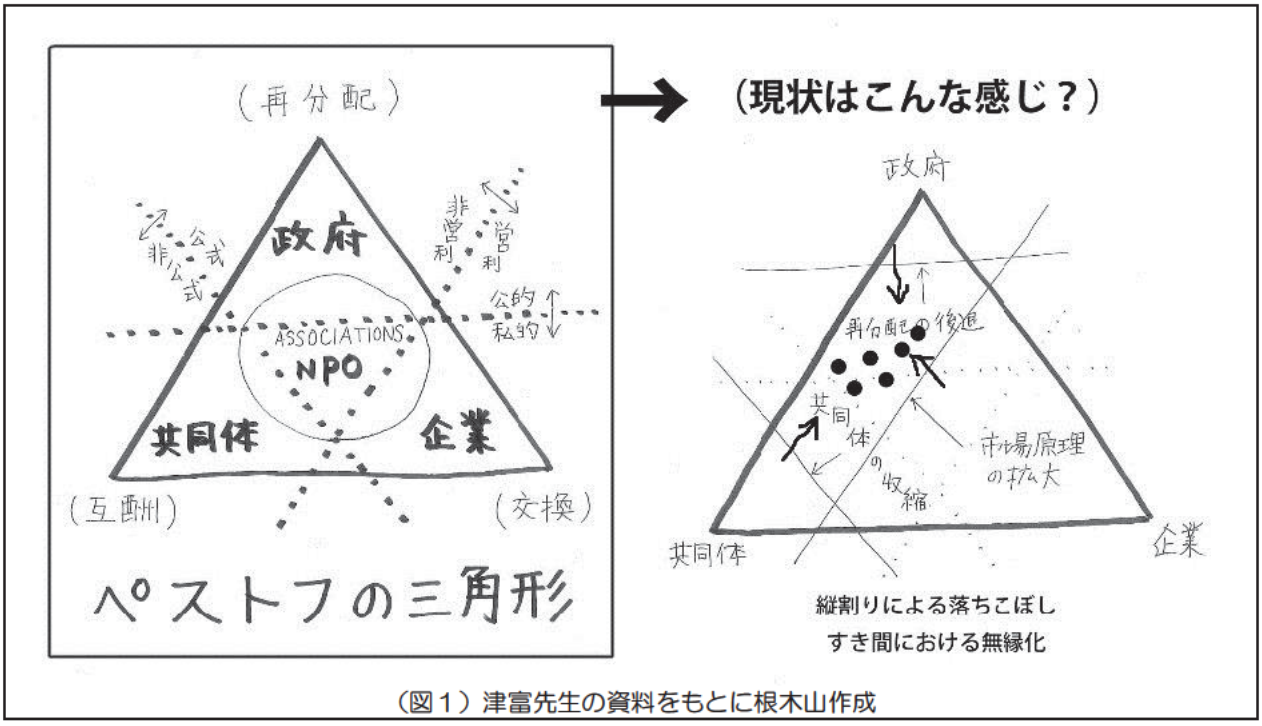
今後に向けては、ソーシャル・ビジネスという潮流とは別の軸として、あらためて NPO が、人びとの“参加と協力”を促進する社会的な役割をはたすことの重要性が提起されました。さらに、ビジネスといういとなみが「いま現在、価値があると認められたもの」を取り扱うのに対し、「いまは未だ価値があると認められていないようなもの」を率先してフォーカスして、“新たな価値創出”という役割を担うことの重要性も、あわせて提起されていました。

★ペストフの三角形でみる現状

そうした NPO の自覚的な議論をリードするおひとりで、静岡県において 1,000 名近いボランティアの力を集め、就労支援という分野で「静岡方式」というスタイルを生み出し、全国的にも名の知れた就労支援ネットワーク静岡の理事長で、静岡県立大学教授でもある津富宏さんと、3 月に滋賀県内で交流する機会にめぐまれました。

「ペストフの三角形」という津富さんから教えてもらった図をご紹介します（図１）。ペストフはスウェーデンの政治経済学者で、「政府（再分配）」・「企業（交換）」・「共同体（互酬）」という異なる機能をもつ３つのセクターが交わる三角形で社会を表現しました。そこでは、中間にある領域を NPO が担うされています。この図式をつかって、現在の日本の社会を見てみると、次のように言えるのではないでしょうか。

まず、三角形の左下の家族や共同体と言った助け



（図１）津富先生の資料をもとに根木山作成

合い（互酬）の機能は、近代化以降、産業構造の変化などを受けて、一貫して収縮してきました。他方、政府機能は、ここ３０年ほどの間に、日本でも、英米につづき新自由主義と言われる考え方が支配的となり、国家の再分配機能が後退しています。あわせて、企業を主役とした市場原理が強調され、社会の中に張り出してきました。

その結果、市場原理、競争社会からはじき出された存在が増加する一方で、かつては、家族や共同体の中で相互扶助できていたことが失われてきています。総じて、３つのセクターのすき間における無縁化が広がっていると言えそうです。

そうした社会において、津富さんたちは、NPOを組織し、たくさんの人びとの参加と協力によって、ふつうの市民が、市民に伴走して、助け合うという活動を実践されています。

★萃点を見出せば諸事の理がわかる

ところで、津富さんは、人びとの参加と協力によるご自身たちの実践のダイナミクスを、とてもユニークな言葉で――地域における人びとのつながりを「生態系」と呼び、さらにその中でNPOが生みだす場を「萃点（すいてん）」と表現されていました。

「萃点」という言葉をご存じでしょうか？

有名な生物学者の南方熊楠（みなかたくまくす）がつくった造語だそうで「たくさんの生き物が行き交い、出会う、交差点」のような点のことです。また、萃点を見出すことで諸事の理がわかる、と南方熊楠は書いているそうです。（図２）

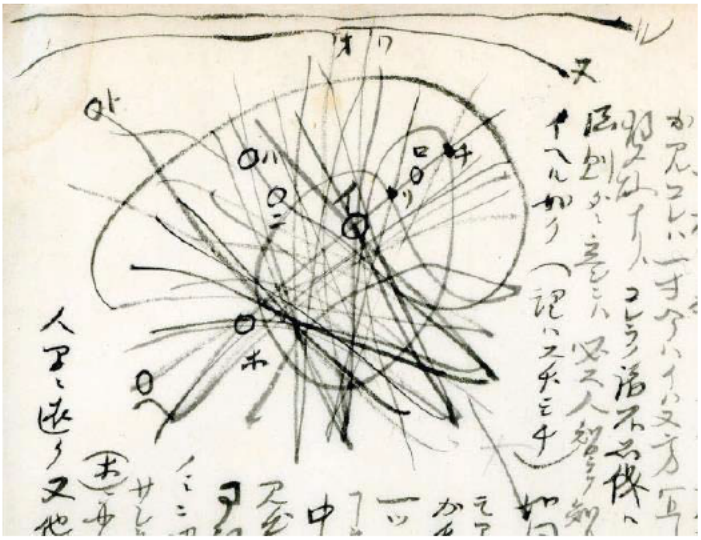
古くからある地域の共同体は、特定のエリアの顔の見える太く強い関係が基調です。それに対し、さまざまな人びとが、ゆるやかな広がりの範囲にあって、「ほそく弱いつながり（関係）」を基調としたあり方もとても多くなっています。

そうした社会の中で、ほそく弱いつながりが、行き交い、出会う交差点（萃点）をつくることがNPOの果たしている役割だと言うことです。

また、津富さんからは、加えて、NPOが果たす社会的な役割として重要なことに、政府に対し

て主権者として、人びとの声を届け、必要な社会政策を求め、運動をおこしていく役割、また、企業に対しても社会のパートナーとして役割を果たすように求め、働きかけていくことがあると言います。

かえって、「琵琶湖のせっけん運動」を思い返せば、まさに、人びとの結節点となり、それを力に、政府や企業へも働きかけ、社会を動かしていた姿がありました。津富さんが示すNPOの社会的役割を果たしていたことを再確認できました。



（図２）「南方マンダラ」より

「この世間宇宙は、天は理なりといえるごとく（理はすじみち）、図のごとく（図は平面にしか画きえず。実は長、幅の外に、厚さもある立体のものと見よ）、前後左右上下、いずれの方よりも事理が透徹して、この宇宙を成す。その数無尽なり。故にどこ一つとりても、それを敷衍追及するときは、いかなることをも見出し、いかなることをもなしうるようになっておる」

※図中の「イ」が萃点（すいてん）を示している。「中心ではない」という。

★“参加と協力”を力に

紙面ものこりわずかになりました。最後に、今後の碧いびわ湖の方針について、カンタンに紹介させてもらいます。

「子どもと湖が笑っている未来へ」を合言葉に、あらためて、人びとの“参加と協力”の受け皿となれるように、まずは、理事会・スタッフが力を出して、取り組みを進めていきます。

重点となるのは、まずは、琵琶湖を愛する人びと、仲間が増えるように力を注ぎます。滋賀県の琵琶湖総合保全計画にもとづく「マザーレイクフォーラム」――琵琶湖流域の多様な主体が出会い、交流するプラットフォームを、琵琶湖を愛する人びとの「萃点」とできるように取り組みます。

つぎに、人びとが出会い、行き交う「萃点」として、各地域にひとびとのコモンズとして拠点スペースをつくるチャレンジをしたいと構想しています。これまで進めてきた住まいづくりのスキルやネットワークを活かすとともに、大切にしたいものを共有する仲間たちとのコミュニティ・オーガナイジングを実践し、社会共通資本（社会インフラ）をカを合せてつくり、その場を活用した助け合い、相互扶助、社会連帯経済活動を実践したいと考えています。

一昨年から学習を進めている経済学の知見も活かしながら、ここ３０年近くつづくデフレ不況のもと、信用創造という貨幣に付随する機能にも着目し、人びとのカで、コモンズを形成するノウハウをつくりたいと思います。

また、紙パックのリサイクル、廃食油のリサイクルなど、長年、継続してきた活動も、わたしたちにとっての大切な財産です。集めて・使うという基本理念を語りながら、人びとの参加と協力をつのり、取り組んでいきます。　（了）

碧いびわ湖の事業概要

●原点はびわ湖のせっけん運動。草の根自治で暮らしをつくる。

1977 年に起きたびわ湖の赤潮を契機に広がった「せっけん運動」と「草の根自治」が私たちの原点です。
一人ひとりが思いと経験を持ち寄り、対話の中から自分にできることを見つけ、協力し合う。
互いの弱さを受け入れあい、得意を活かしあうことで、誰もが大切にされる、安心・自信・自由の暮らしを守り、育てます。

●違いを理解し尊重し合って、違いを活かしあう。

一人ひとりの顔が異なるように、大事にしていることも、得意なことも違います。
その違いを対立にせず、逆に力を補い合い活かしあえるよう、碧いびわ湖では、相互理解と相互尊重ができるコミュニケーションを大切にしています。

●まず、あなたに合った入り口から、ご参加ください。

共同購入やイベントや活動への参加、住まいづくりのご相談、寄付へのご協力やご入会など、碧いびわ湖には様々な形でご参加いただけます。関心がおありのことから、まずは気軽にご参加ください。

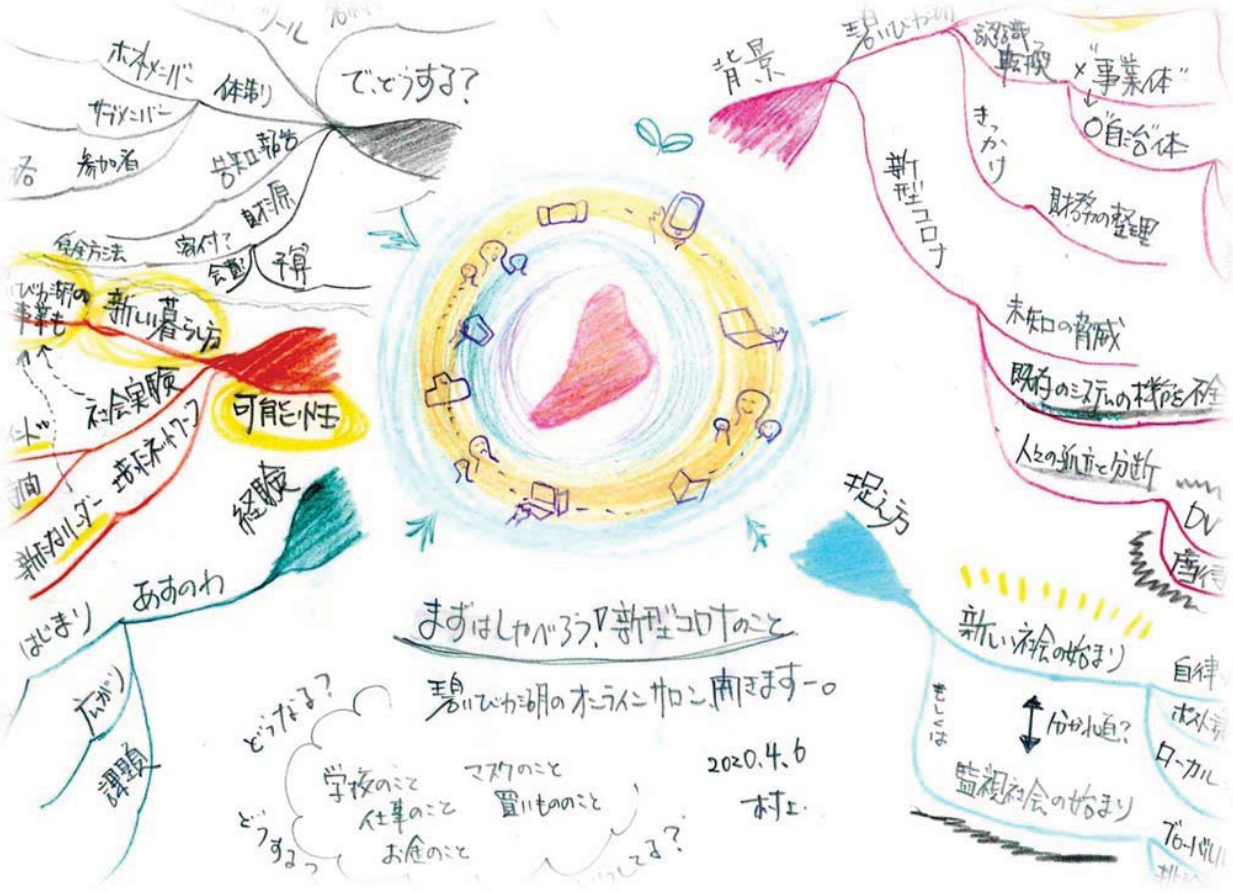
【お問い合わせ先】
特定非営利活動法人 碧いびわ湖
電話　0748-46-4551
FAX　0748-46-4550
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦３
メール　info@aoibiwako.org
ＨＰ　http://aoibiwako.shiga-saku.net/

子どもと湖が笑ってる未来へ
碧いびわ湖

特定非営利活動法人 碧いびわ湖

年間活動レポート

2020 年版



子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖

碧いびわ湖は
自分たちが望む暮らしを
力を合わせて創る場です

琵琶湖は、私たちの暮らしを映す鏡のような存在です。

40 数年前、琵琶湖の湖面が「赤潮」で赤錆色に染まったのは
時間に追われ、便利さや安さに惹かれた人々の暮らしの帰結だったと言えます。

いま琵琶湖の水は、当時より澄んできましたが
生き物たちのにぎわいは戻ってきていません。
堰や水門などが生き物たちの移動をさまたげ、
ゆりかごでもある内湖や水草帯が減ったことが大きな要因と言われています。

こうした「つながりの分断」や「次世代を育む力の弱まり」は
私たちの社会でも同じように起きていることではないでしょうか。

社会をつくるのは、私たちの日々の暮らしです。
食事、買い物、住まい、仕事、遊び…
そのあり方が、私たちと子どもたち、
そして琵琶湖の未来を決めていきます。

だから　共に変わっていきませんか
つながりを育み
子どもたちが元気に育っていける暮らしへ

あなたの参加が、力になります。
子どもと湖が笑ってる未来を、共に創る力に。

「市民自治」から”運動”と”事業”を生みだす

碧いびわ湖の活動の基盤は「市民自治」です。一人ひとりが想いを語り合い、聴き合い、理解し合って、共に考えること。その中から、社会に変化を起こす”市民運動”や、暮らしを支える”市民事業”を生みだします。そしてその事業がまた「市民自治」を持続させています。

買い物づくり	住まいづくり	地域づくり
子どもたちの命と琵琶湖の水を守る生協運動を原点に、地域の有機農産物やリサイクル製品を購入する「**共同購入**」と、ティシュ・ロールの原料の牛乳パックやせっけん原料の廃食用油を回収する「**リサイクル**」の事業を行っています。	琵琶湖の水を守る合併浄化槽設置運動を原点に、環境や子育てのことを考えた「**住まいづくり**」の事業を行っています。無垢の木の家づくり、雨水タンク、太陽熱温水器、薪ストーブの設置工事などを行っています。ワークショップもしています。	自然が豊かで子どもたちが生き生きと育つことのできる環境づくりを市民がすすめる「**地域づくり事業**」を行っています。ホタルが自生する川づくり（守山市）、多様な人々の琵琶湖の保全への参加促進（全県）などを行っています。
市民自治		
気になっていること、やってみたいことなど、色んな思いを、互いに語り合い聴き合うことから協力を生み出す「**市民自治**」をしています。市民メディア「あまいろだより」の発行や、子育て中のお母さんがほっとできる場「あすもの日」などの活動もその中から始まりました。		

はじまりは、琵琶湖のせっけん運動でした

1977 年 5 月、琵琶湖の湖面が赤錆色に染まり、異臭が漂いました。プランクトンが異常繁殖する「赤潮」という現象で、原因は家庭で洗濯に使われていた有リン合成洗剤でした。生協、婦人会、労働組合などが協力して県民あげてのせっけん利用が進められ、1980 年には県内で有リン合成洗剤の販売を禁じる富栄養化防止条例（びわ湖条例）が制定されました。

この運動の担い手の一つ「湖南消費生活協同組合」の中から、1989 年に「滋賀県環境生活協同組合」が設立され、環境に特化した市民事業の実践と循環型の地域づくりが進められました。2009 年にこの生協を組織改編したのが NPO 碧いびわ湖です。子育て世代を中心に仲間を育みながら、10 年にわたって運動と事業を継続しています。

【買い物づくり】 心もつながる買い物へ

つくるひと、たべる人、運ぶひと、みんなが笑顔になれる、心の通う買い物づくりに取り組んでいます。牛乳パックをティシュやロールに、廃食用油をせっけんにという資源循環の輪も、官民の多様な主体の参加で継続しています。

牛乳パックリサイクルの学習の一環で、紙すきを体験（近江八幡市内の中学校）

株式会社平和堂のオリジナルトイレットペーパー。「集めて使うリサイクル」が実現。

中国の政策変更の影響でゆれる古紙業界にて、あらためて情報交換、価値共有を確かめ合う「関西ミルクロードの会」（総会にて）

お米を共同購入している（農）大戸洞舎（おどふらしゃ）の無農薬栽培の田んぼにコウノトリがやってきました

●「一円基金」で学習プログラム開発

みんなで集めた牛乳パックを原料にした「ただいまロール・おかえりティシュ」の購入代金から積み立てた「一円基金」を活用し、学校での学習プログラムを開発して近江八幡市内の中学校で実施しました。紙すき体験、見学、対話などを交え、体感的に主体的に牛乳パックリサイクルを学べるプログラムができました。

平和堂近江八幡店でのパック回収も体験

●「集めて使うリサイクル」が平和堂でも！

滋賀県最大手のスーパー株式会社平和堂は、1990 年から牛乳パック回収にご協力いただいています。2019 年 11 月、平和堂で回収した牛乳パックを利用したオリジナルトイレットペーパーが新発売され「集めて使うリサイクル」が平和堂でも実現されました。代金から 1 巻 2 円が碧いびわ湖に寄付をされます。紙パックリサイクルの普及・学習活動に活用します。

12 月に滋賀グリーン活動ネットワーク主催の三方よしのエコフェアでも牛乳パックリサイクルの体験を出展しました（大津市）

●農産物の共同購入を継続

農産物の共同購入を昨年度も引き続き実施しました。（農）大戸洞舎、養生農園、愛のまちエコ倶楽部では気候の影響での減収もありましたが、茗荷村同労舎、村田農産、吉田農園などにご協力いただいて供給を持続できました。京大農薬ゼミの省農薬みかんは大柿肇さんが就農 2 年目。収量がぐんと増えました。

３月に京大農薬ゼミのメンバーと石田先生、大柿さんが安土までお越しくださいました。

＜数字で見る　共同購入事業の成果＞

●お米供給量	5,456kg	省農薬みかん供給量	5,495kg
●粉せっけん「びわ湖」供給量	2,409kg	←●廃食用油回収量	9,072L
●液体せっけん「ゆう」供給量	1,522L		
●トイレロール「ただいまロール」等供給量	10,925 袋	←●牛乳パック回収量	326,808kg
●ティシュ「おかえりティシュ」供給量	4,316 袋		

【住まいづくり】あるもの活かしみんなで創る

身近な人々と協力し合い、身近な資源や自然の恵みを活かす暮らしのインフラとしての住まいづくりに取り組んでいます。プロの力を借りつつも、人々が主体的に参加し、協力して住まいをしつらえることに取り組んでいます。

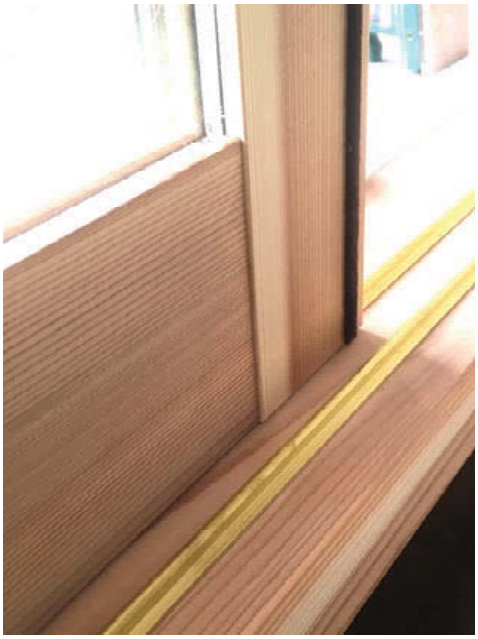
クラウドファンディングで傷んでいた和室を改修して開設した「みんなの休憩室」。（改修前と改修後）

障害のある人も暮らす歴史ある住まいの、屋根の修繕工事を行いました（日野町）

グループホームの入浴用にソーラーシステム（太陽熱利用機器）を設置しました（近江八幡市）

●近江八幡旧市街地に「みんなの休憩室」

2019 年 5 月に開店した「食堂ヤポネシア」（近江八幡旧市街地内）の奥で傷んでいた 6 畳間を、赤ちゃんの授乳やおむつがえなどに活用できる「みんなの休憩室」としてクラウドファンディングで整備しました。会員の発案でプロジェクトを立ち上げ、173 人の方から 114 万円をお寄せいただき、改装費用と二年間の借り上げ費を賄うことができました。近江八幡の旧市街地を子連れで街歩きしやすい環境を整えることができました。



マンションでの木製サッシの設置も行いました。冷暖房の効率がよくなりました（京都市）

●古民家の修繕工事も行いました

日野町内にある元近江商人の屋敷の屋根修繕工事を請け負いました。築 100 年を超えているにもかかわらずとてもきれいな瓦で、部分補修だけで済みました。丁寧に人の手でつくられたものの寿命の長さを実感しました。他にも古民家の改修や維持工事を 2 件請け負いました。

２２年前に設置された太陽熱温水器の修繕工事にも対応。無事に継続使用できました。（近江八幡市）

●福祉施設での自然エネルギー設備導入

例年に引き続き、福祉施設での自然エネルギー設備の導入を行いました。近江八幡市内にあるオアシスグループホームさんに、２台のソーラーシステムを設置しました。滋賀県の分散型エネルギーシステム導入加速化事業補助金を活用し、実質１／２負担での設置ができました。もともと雨水タンクを設置したり菜園をされたりしている施設で、さらに環境に調和し、防災上の備えも向上できました。

＜数字で見る　住まいづくり事業の成果＞

●協同型の建物整備	１件	●修繕・リフォーム	１７件
●雨水タンク設置	３件	●太陽熱温水器設置	１件
●木製サッシ設置	１件		

【地域づくり】　子どもと湖が笑ってる未来へ

滋賀県内でも、古くからの村落共同体的な慣習が弱まり、個人化・流動化する状況があります。“みんな一緒”というだけでは、なかなか共に行動できなくなっています。いまの時代にあった、子育て世代のつながりづくりを！

守山市のまちなかで、親子でほたるを飛ばす！環境学習クラブ「ルシオールキッズクラブ」がスタートしました。

あおいそらと森のおうちプロジェクト（ASMO）
――お母さんが笑顔になれる居場所「あすもの日」。

野洲川にて、子どもたちが、川で遊び、学び、育つ活動。
子育て中のお父さん、お母さんたちと運営しています。

●お母さんがホッと一息つける場

碧いびわ湖と、こども園そら（草津）、ちいさいおうちようちえん（守山）、せた森のようちえん（大津・栗東）とのパートナーシップにより進めています。乳飲み子をかかえるお母さんのホッと一息つける場「あすもの日」を定期的に開催しました。

●野洲川の川守りをつなぐ

野洲川下流部、守山市中洲学区にて、川守りをつなぐ活動を継続してます。川と人、住民と行政とのつなぎ役。最近は、川遊びに加えて、河道内に生えてくる樹木の伐採や、河川敷での草サッカーもスタート。また、守山市環境学習事業づくりにも参画しています。

●科学的なアプローチで小さな自然再生

守山の中心市街地に、ほたるが自生する河川環境をつくるため、株式会社みらいもりやま２１とのパートナーシップで、滋賀県立大学の瀧健太郎さんにご指導いただき「小さな自然再生」の考え方にもとづき、川遊び×サイエンス学習を軸に活動しています。滋賀県と野洲市などが共催したフォーラム「集まれ！小さな自然再生」にて活動成果発表を行いました。守山市内で長年つづく、市民によるほたる再生保全活動にも参加しています。

＜おもな事業＞

●マザーレイクフォーラム――創発自治プロジェクト
●滋賀県子ども県議会
●守山市中心市街地活性化計画（第２期）――川に学ぶプロジェクト
●川と人、人と人をつなぐ住民コーディネーター（琵琶湖河川事務所）
ほか

【市民自治】 大切なことを他人任せにしない

ただでさえ、いそがしく、せわしない毎日。そんななかでも、大切なことを他人任せにせず、力をあわせて自分たちでつくりたい。
ひとり一人、ものごとの感じ方や考え方には違いがあって当たり前。
自分のきもちをたいせつに、他者との対話をつづけながら、ともに行動します。

環境レイカーズからバトンをひきついだ「滋賀県子ども県議会」の運営業務。50 人の子ども議員や、サポーター、滋賀県子ども・青少年局とともに運営に従事しました。子どもの権利条約にもとづく「子どもの意見表明権」をたいせつに、滋賀県政にも活かしていこうという取り組みです。

「マザーレイクフォーラム」の一環で、創発自治プロジェクト

手づくり市民メディア「あまいろだより」

●滋賀県子ども県議会

20 年あまりにわたってつづく滋賀県子ども県議会の事業運営に、ご縁あって従事することになりました。「体験から学ぶ、たがいに学ぶ、たのしく学ぶ」という３つの「た」をキイワードに、7 月から 12 月までのおよそ半年間の活動が行われました。

●21 世紀型せっけん運動をめざして

碧いびわ湖では、琵琶湖の周りに暮らし、事業をおこなう多様な主体が参加、つながるプラットホームである「マザーレイクフォーラム」の運営に参画してきました。これから、県民、事業者、NPO 等の主体的な活動、つながりあいが、より自発的に起こっていく状況を目指して、#つながる清掃活動、BIWAKO トークカフェという活動をスタートさせました。

●手づくり市民メディア&勉強会

手づくり市民メディア「あまいろだより」が、通算 41 号をかぞえました。気象変動の影響とも言われる巨大な台風による大きな水害のあとの昨年 12 月には、Vol.40『川と暮らしとハザードマップ』(特集)を発行。また、「滋賀的　オーガニック が食べたい！」と題して、ゲスト講師を招いた勉強会を 2 回実施しました。

＜おもな活動＞

●手づくり市民メディア「あまいろだより」Vol.38～41（年間４回）発行
●あまいろ勉強会「滋賀的　オーガニック が食べたい！」第 1～2 弾（２回）を開催
●お母さんがホッと一息つける場「あすもの日」を開催（９回）
●コミュニティ・オーガナイジング関西――実践報告会@京都に参加
ほか

お気軽にご参加ください

→　事業の利用で参加してみる

共同購入や住まいづくりなどの事業は、会員でない方でもご利用いただけます。リサイクルへの参加も可能です。

●共同購入→「碧いびわ湖の共同購入」検索
●住まいづくり→「碧いびわ湖の住まいづくり」検索
●リサイクル→お問い合わせください

▲碧いびわ湖の共同購入サイト

→　イベントに参加してみる

碧いびわ湖では、様々なイベントを企画実施しています。碧いびわ湖の Facebook ページでイベントの告知や実施報告を掲載していますので、まずは「いいね！」でフォローしてください。

●Facebook→「碧いびわ湖」検索して”いいね！”

→　入会する、寄付をする、ボランティア活動をする

自分も運動や事業に参加したい、協力したいと思ってくださった方は、ご入会ください。会員は毎年５月に開催される会員総会にご参加いただけます。

・運営会員　1000 円/口・年（複数口可）議決権あり
・賛助会員　3000 円/口・年（複数口可）議決権なし

また、寄付は随時お受けしています。
ボランティアも随時ご相談に応じています。

●入会・寄付・ボランティア→お問い合わせください

特定非営利活動法人 碧いびわ湖
電話　0748 46 4551　　FAX　0748 46 4550
〒521 1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦３
メール　info@aoibiwako.org
ＨＰ　http://aoibiwako.shiga saku.net/

子どもと湖が笑ってる未来へ
碧いびわ湖

特定非営利活動法人 碧いびわ湖

年間活動レポート

2021年版

子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖

力を合わせる
子どもと湖が笑ってる未来へ

今年は、「びわ湖の日」40 周年。
「子どもたちの未来とびわ湖を守りたい！」の想いを共に
人々が手を携え、大きなうねりをつくった「せっけん運動」の記念日です。

いま、グレタ＝トゥーンベリさんの行動に勇気づけられ
気候危機の回避と社会の仕組みの変革（システムチェンジ）への
世界的な連帯が広がっています。

私たちの暮らす滋賀でも、多くの若者と市民が、
一人ひとりの足元から、日々の暮らしと経済を変えようと、
さまざまなチャレンジを始めています。

“しが CO2 ネットゼロ”ムーブメント、マザーレイクゴールズ（MLGs）などの
県の政策も始まりました。

碧いびわ湖は、世代を超え、立場を超え、人と人が力を合わせて、
「安心を実感できる暮らし」と「持続可能な社会」、
そして「命あふれるびわ湖」を
取り戻す歩みを続けます。

あなたの手、わたしの手、
そしてこの子の小さな手。
そのすべてが、未来への希望です。

一人ひとりの想いと力を寄せ合って

碧いびわ湖は、「自治」と「協同」によって運営される市民事業体です。一人ひとりの想いと力を持ち寄り、望む暮らしを共に描いて行動し、運動や事業を生み出します。

地域づくり	共同購入・リサイクル	住まいづくり
ホタルが自生する川づくりや環境学習事業（守山市）、マザーレイクゴールズ（MLGs）の推進（全県）など、人々が助け合い、誰もが未来に安心と希望を抱ける暮らし・社会をつくる「**地域づくり事業**」を行っています。	びわ湖とその流域の水と土を守る農産物や間伐材を使った紙製品、リサイクル製品をみんなで購入する「**共同購入事業**」と、製品の原料となる牛乳パックや廃食用油を多様な人々の協力で集める「**リサイクル事業**」を行っています。	ワークショップなどを通じて人々が共に学び、力を合わせ、森の木、雨水、太陽熱など身近な自然を生かす住まいをつくる「**住まいづくり事業**」を行っています。子育てと暮らしを共にするコミュニティ住宅にも取り組んでいます。

市民自治・政策提言

市民メディア「あまいろだより」の発行や、子育て中のお母さんがほっとできる場「あすもの日」の運営など、一人ひとりの想いと力を持ち寄り、目指す暮らしに向けて力を合わせる「**市民自治**」をしています。気候変動や琵琶湖や教育などに関して、多様な市民が学び合い、行政や企業などにはたらきかける「**調査研究・政策提言事業**」も行っています。

はじまりは、琵琶湖のせっけん運動でした

1977 年 5 月、琵琶湖の湖面が赤錆色に染まり、異臭が漂いました。プランクトンが異常繁殖する「赤潮」という現象で、洗濯に使われていた有リン合成洗剤がその原因でした。生協、婦人会、労働組合などが協力してせっけんの使用が進められ、1980 年には県内で有リン合成洗剤の販売を禁じる富栄養化防止条例（びわ湖条例）が制定されました。

せっけん運動の一翼を担った「湖南消費生活協同組合」の中から、1989 年に「滋賀県環境生活協同組合」が設立され、環境に重点を置いた市民事業と地域づくりを行いました。2009 年、この生協の事業を継承して生まれたのが NPO 碧いびわ湖です。子育て世代を中心に、40 年以上にわたる運動と事業を継続しています。

【市民自治】 大切なことを他人任せにしない

世界は、気候変動という大きな問題に直面しています。琵琶湖でも、２年連続、全層循環が観察されないということが生じ、「予想以上に早くにこうしたことが起きた」と指摘されました。自然の生態系や、人間社会の活動は、さまざまな要因が相互に作用しあっていて、とても複雑でわかりにくい状況になっています。身近な人と信頼関係をつむぐこと。またすこし広く、違いを認め合ってつながり、ともに行動することが力になります。

2020 年９月、世界危機アクションにあわせ、石山駅前で多くのみなさんとともにアピール

あまいろだより vol.44「家もエネルギーも自給する」

お母さんがホッと一息つける場「あすもの日」

●手作り市民メディア「あまいろだより」

有志メンバーでつくる「あまいろ探偵団」(5 人）で、毎回、多彩なゲストとともに対話し、記録・編集している手作り市民メディア「あまいろだより」を 3 回発行しました。また、3 月には湖南市内の小学校にて「ミツロウラップづくり」の出前授業を行いました。

小学校での出前授業の様子

●ホッとひと息つける場「あすもの日」

碧いびわ湖と、こども園そら（草津)、ちいさいおうちようちえん（守山)、せた森のようちえん（大津・栗東）とのパートナーシップにより進めています。乳飲み子をかかえるお母さんのホッと一息つける場「あすもの日」を 7 回開催しました。

インスタグラム@asmo shiga 情報発信中

●気候危機アクション・ネットワーク

滋賀県に気候非常事態宣言を求める請願を出された人や、Fridays For Future Shiga の若者たちとともに、9 月には世界気候危機アクション in 石山駅前に参加し、県議会で全会一致で請願が採択された後、三日月滋賀県知事との対話の場にも参加しています。

三日月知事との対話（2020 年 11 月）

●マザーレイクフォーラム――創発自治 PJ

マザーレイクフォーラムの計画最終年度にあたり、つぎの 10 年に向けて、オンラインでの対話を含め、さまざまな主体と連携した企画、活動に参画しました。2021 年 7 月には、新たな仕組みとして、MLGs（マザーレイクゴールズ）が策定される見通しです。

「BIWAKO トークカフェ Vol.2　つながる清掃活動〈釣り人×バードウォッチャー〉」

＜おもな活動・事業＞

●手づくり市民メディア「あまいろだより」Vol.42～44（3 回）発行
●出前授業「ミツロウラップづくり」湖南市内の小学校にて（1 回）を開催
●お母さんがホッと一息つける場「あすもの日」を開催（7 回）
●世界気候危機アクション in 滋賀に参画し、三日月滋賀県知事との対話に参加（3 回）
●マザーレイクフォーラム――創発自治プロジェクトに参画・連携（6 回）
ほか

【地域づくり】　子どもと湖が笑ってる未来へ

最近よく、「いまの時代は、あらゆる環境が目まぐるしく変化し、将来に対する予測がつかない」と言われます。世界では、気候変動を緩和するために経済社会をシステムチェンジできるのか、あるいは、気候変動がもたらす未曾有の出来事にいかに適応するのか。他方で、国内では人類が未だ経験したことのないペースでの人口減少が進んでいます。

未来を生きる子どもたちに、私たちはなにを手渡せるでしょうか。

子どもたちが、幼少期から身近な自然環境で、異年齢を含む集団のなかで思う存分に遊ぶことができる機会を増やそうと取り組んでいます。困難な状況にあっても、仲間とともにたくましく生き抜く力を育みたいです。

滋賀県立大学の瀧健太郎さんが、京都大学防災研究所と行う共同研究に参加し、守山市にあるあまが池プラザにて、防災×環境学習を行いました。流れる水の働きを目の前で手に取るように再現してくれるジオモデルを使った学習。

25 名の子ども議員の意見表明をサポート

野洲川下流部（守山市）での川遊び・環境学習

●滋賀県子ども県議会

昨年度につづき、滋賀県の事業を受託し、運営にあたりました。県内のネットワークでつながる、さまざまな専門分野の大人にゲストに来ていただき、子ども議員との話し合いも実施しました。

ゲストを迎えての第２回活動の様子

●親子でほたるを飛ばす！環境学習クラブ

（株）みらいもりやま 21（守山のまちづくり会社）とともに 2016 年より取り組んでいるほたるが自生する河川環境づくりを継続しています。親子による環境学習クラブ「ルシオール・キッズ・クラブ」で、11 月に開催された「キャンパス SDGs びわ湖大会」（滋賀県立大学）にオンライン参加しました。

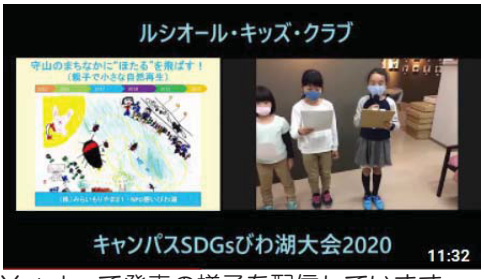
守山のまちなかにある「あまが池親水緑地」での小さな自然再生の活動の様子

●野洲川で遊ぶの大好き！クラブチーム

琵琶湖河川レンジャー制度にもとづき、野洲川下流部にて川と人、住民と行政をつなぐ住民コーディネーター活動を継続しています。

野洲川で川遊びを行うとともに、河川清掃活動も行いました。また、10 人乗りカヌーを活用した環境学習もはじまりました。地元の自治会と連携した保全活動にも参画しています。

他方、守山市環境学習事業推進委員会にも参画し、多くの住民や団体、企業、公的機関のみなさんと活発に語り合い、守山市の新たな環境学習事業のメニューづくりを行いました。



Yotube で発表の様子を配信しています

野洲川では、カヌー（E ボート）をつかった活動もはじまりました！

＜おもな活動＞

●滋賀県子ども県議会（9～12 月）
●親子でほたるを飛ばす！「ルシオールキッズクラブ」（川に学ぶプロジェクト）
●滋賀県立大学瀧健太郎研究室・京都大学防災研究所共同研究（参加協力）
●川と人、人と人をつなぐ住民コーディネーター（琵琶湖河川事務所）
ほか

【住まいづくり】学び、つながる 住まいづくり

循環型の住まいを、学びながらつくる活動に取り組みました。プロの指導のもと、子どもたちの手で基礎から東屋をつくるワークショップにもチャレンジ。新たな可能性が拓かれました。

あさがら野 子どもと自然舎（栗東市）での東屋づくりワークショップ。掛矢の音がコーンコーンと森に響きました。

基礎の穴掘りやコンクリートも子どもたちの手で。

屋根もみんなでトントンカンカン、はりました。

●子どもたちの手で東屋づくり！

2020 年秋、栗東市のあさがら野 子どもと自然舎で、子どもたちの手による東屋づくりに初チャレンジ。プロの指導と、多くの大人の見守りの中、基礎の穴掘りとコンクリートの流し込みから屋根の板金まで、すべてを子どもたちがやり遂げました。年長の子たちが学んだことを、年下の子どもたち一人一人に合わせてで教える様を目にして、子どもたちには「学ぶ力」だけでなく「教える力」が豊かにあることを実感しました。

個人宅での雨水タンク設置ワークショップ（近江八幡市内）

●「あまみちのデザイン」ワークショップも

雨水タンクの設置もワークショップで行い、学びの機会としました。地球規模からタンクの規模まで共通する水の動きや、暮らしの中での水の用途や使用量を振り返ったうえで、どこにタンクを置くのがいいのか、容量はどのくらいがいいのか、などを、みんなで考えて設置しました。竹籔での野外活動用の雨水タンクの設置も行いました。

竹籔での雨水タンク設置ワークショップ（京都府向日市）

●コミュニティ住宅づくりに向けた関係構築

人々がエコロジカルな子育てや暮らしを共にできるコミュニティ住宅の実現に向け、日野町内で人びとの関係構築とリサーチを進めました。空き家のオーナー、近隣住民の方々、移住希望者、町役場担当者、コーポラティブハウスの運営者などからお話を伺ったり現地訪問を重ねて、次年度以降の事業実現に向けた人的ネットワークと知見を蓄積しました。

移住希望者、移住経験者、空き家所有者、行政職員が会しての座談会（日野町）

＜数字で見る　住まいづくり事業の成果＞

●雨水タンク設置	６件	●太陽熱温水器設置	２件
●リフォーム・部分修繕等	22 件		

【共同購入・リサイクル】　つながり、つづける

長年続けている共同購入とリサイクル事業を、今年も継続しました。新型コロナウィルスの影響下でも、多くの方々と事業者さんが参加を継続くださっています。

開催ミルクロードの仲間、みんなの労働文化センター（尼崎市）の永岡亮さんが碧いびわ湖をお訪ねくださいました。

●関西ミルクロードの会のこれから

牛乳パックの回収と、「おかえりティシュ」＆「ただいまロール」の供給の仲間である関西ミルクロードの会のみなさんと、活動を活性化して仲間を広げるための方策を、オンラインも活用して議論し、交流を深めました。この成果をもとに、今後、具体的な取り組みを進めていく予定です。

●心温まる味噌づくり

大津市のえくぼ保育園では、長浜の大戸洞舎のお米を給食にお使いいただいています。この冬には大豆も購入され、年長さんたちがかまどでの味噌づくりにチャレンジしました。お味噌ができる頃には小学生だから自分は食べられないけど、小さい子たちのためにと一生懸命、薪をくべてつくったそうです。♡

＜数字で見る　共同購入・リサイクル事業の成果＞

●お米供給量	5,530 kg	省農薬みかん供給量	5,035 kg
●粉せっけん「びわ湖」供給量	2,279 kg	←●廃食用油回収量	5,358 L
●液体せっけん「ゆう」供給量	1,020 L		
●トイレロール「ただいまロール」等供給量	10,243 袋	←●牛乳パック回収量	367,563 kg
●ティシュ「おかえりティシュ」供給量	3,633 袋		

2021年7月1日
マザーレイクゴールズ（MLGs）がはじまります！

びわ湖の日20周年の2001年に、滋賀県は市民参画型の琵琶湖の保全再生計画「マザーレイク21計画」を策定しました。碧いびわ湖も2009年から参画してきたこの事業を継承し、びわ湖の日40周年となる今年、新たにマザーレイクゴールズ（MLGs）が始まります。

碧いびわ湖は今年、このMLGsの推進事業の事務局を担うことにもなりました。学生〜20代の若者たちの参画も得て、人びとの行動と協力を生み出し、琵琶湖とその流域の自然環境を豊かに守り生かしていける暮らしと自治を、育んでいきたいと思います。

スタートは7月1日、びわ湖の日。ご参画とご協力のほど、よろしくおねがいたします！

お気軽にご参加ください

→　イベントに参加してみる

碧いびわ湖では、様々な体験や学び、出会いのあるイベントを企画実施しています。Facebook ページなどで告知や実施報告を掲載していますので、まずは「いいね！」でフォローしていただいて、参加したいと思ったものにご参加ください。

●Facebook→「碧いびわ湖」検索して”いいね！”

→　入会する、寄付をする、活動をする

自分が活動を担うことで、より深い経験やつながりを得ることができます。活動に協力したい、参加したい方は、ご入会ください。会員は毎年５月に開催される会員総会にもご参加いただけます。

・運営会員　1000 円/口・年（複数口可）議決権あり
・賛助会員　3000 円/口・年（複数口可）議決権なし

寄付も随時お受けしています。

●入会・寄付・ボランティア→お問い合わせください

→　事業の利用で参加してみる

共同購入や住まいづくりなどの事業をご利用いただくことで、ご自身の日々の暮らしを具体的に変えていくことができます。会員でない方でもご利用いただけます。リサイクル活動への参加も可能です。

●共同購入→「碧いびわ湖　共同購入」検索
●住まいづくり→「碧いびわ湖　住まいづくり」検索
●リサイクル→お問い合わせください

▲碧いびわ湖の共同購入サイト

特定非営利活動法人 碧いびわ湖
電話　0748 46 4551　　FAX　0748 46 4550
〒521 1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦３
メ　ル　info@aoibiwako.org
ＨＰ　http://aoibiwako.shiga saku.net/

子どもと湖が笑ってる未来へ
碧いびわ湖

第1号議案 2018年度事業報告

項目	2018年度実績		2017年度実績	前年度比
1．会員、寄付、利用者数				
会員数				
運営会員	120 名	←	118 名	＋ 2 人
賛助会員	38 名	←	36 名	＋ 2 人
一般寄付者数	24 名	←	28 名	△ 4 人
個人利用者数	499 人	←	542 人	△ 43 人
個人新規利用者数	118 人	←	159 人	△ 41 人
法人利用者数	124 事業所	←	123 事業所	＋ 1 事業所
法人新規利用者数	9 事業所	←	10 事業所	△ 1 事業所
2．共同購入事業				
地域産食材				
お米供給量	5,248 kg	←	4,315 kg	＋ 933 kg
菜種油供給量	197 L	←	199 L	△ 2 L
リサイクル製品				
再生粉せっけん供給量	3,137 kg	←	3,437 kg	△ 300 kg
再生液体せっけん供給量	1,902 L	←	1,596 L	＋ 306 L
再生ティシュ供給数	4,477 袋	←	4,542 袋	△ 65 袋
再生トイレロール供給数	10,467 袋	←	10,553 袋	△ 86 袋
地域資源活用品				
間伐材利用紙（A4･2500枚）	55 ケース	←	50 ケース	＋ 5 ケース
購入拠点箇所	19 箇所	←	19 箇所	0 箇所
3．リサイクル事業				
廃食用油供給量	49,740 kg	←	38,940 kg	＋ 10,800 kg
牛乳パック供給量	333,840 kg	←	331,570 kg	＋ 2,270 kg
4．住まいづくり事業				
小型雨水貯留槽設置	3 件	←	7 件	△ 4 件
大型雨水利用システム設置	4 件	←	4 件	0 件
家庭用太陽熱温水器設置	4 件	←	7 件	△ 3 件
法人用太陽熱温水器設置	1 件	←	0 件	＋ 1 件
薪ストーブ・ペレットストーブ	3 件	←	0 件	＋ 3 件
木製サッシ設置	0 件	←	1 件	△ 1 件
その他	22 件	←	18 件	＋ 4 件
5．地域づくり事業				
講座	1 講座	←	3 講座	△ 2 講座
小さな自然再生実施箇所	1 件	←	1 件	0 件
講演・研修受託	12 件	←	16 件	△ 4 件

第1号議案　2019年度事業報告

項目	2019年度実績		2018年度実績	前年度比
1．会員、寄付、利用者数				
会員数				
運営会員	129 名	←	120 名	＋ 9 人
賛助会員	46 名	←	38 名	＋ 8 人
一般寄付者数	23 名	←	24 名	△ 1 人
個人利用者数	469 人	←	499 人	△ 30 人
個人新規利用者数	55 人	←	118 人	△ 63 人
法人利用者数	117 事業所	←	124 事業所	△ 7 事業所
法人新規利用者数	6 事業所	←	9 事業所	△ 3 事業所
2．共同購入事業				
地域産食材				
お米供給量	5,456 kg	←	5,248 kg	＋ 208 kg
菜種油供給量	132 L	←	197 L	△ 65 L
リサイクル製品				
再生粉せっけん供給量	2,409 kg	←	3,137 kg	△ 728 kg
再生液体せっけん供給量	1,522 L	←	1,902 L	△ 380 L
再生ティシュ供給数	4,316 袋	←	4,477 袋	△ 161 袋
再生トイレロール供給数	10,925 袋	←	10,467 袋	＋ 458 袋
地域資源活用品				
間伐材利用紙（A4･2500枚）	58 ケース	←	55 ケース	＋ 3 ケース
購入拠点箇所	19 箇所	←	19 箇所	0 箇所
3．リサイクル事業				
廃食用油供給量	48,570 kg	←	49,740 kg	△ 1,170 kg
牛乳パック供給量	321,270 kg	←	333,840 kg	△ 12,570 kg
4．住まいづくり事業				
小型雨水貯留槽設置	3 件	←	3 件	0 件
大型雨水利用システム設置	0 件	←	4 件	0 件
家庭用太陽熱温水器設置	0 件	←	4 件	△ 4 件
法人用太陽熱温水器設置	1 件	←	1 件	0 件
薪ストーブ・ペレットストーブ	0 件	←	3 件	△ 3 件
木製サッシ設置	1 件	←	0 件	＋ 1 件
その他	18 件	←	22 件	△ 4 件
5．地域づくり事業				
地域づくりプロジェクト	5 件	←	2 件	＋ 3 件
講師・研修・委員受託	20 件	←	12 件	＋ 8 件

第1号議案　2020年度事業報告

項目	2020年度実績		2019年度実績	前年度比
1．会員、寄付、利用者数				
会員数				
運営会員	114 名	←	112 名	＋ 2 人
賛助会員	48 名	←	49 名	△ 1 人
一般寄付者数	45 名	←	23 名	＋ 22 人
個人利用者数	446 人	←	469 人	△ 23 人
個人新規利用者数	56 人	←	55 人	＋ 1 人
法人利用者数	105 事業所	←	117 事業所	△ 12 事業所
法人新規利用者数	8 事業所	←	6 事業所	＋ 2 事業所
2．共同購入事業				
地域産食材				
お米供給量	5,530 kg	←	5,456 kg	＋ 74 kg
菜種油供給量	116 L	←	132 L	△ 16 L
リサイクル製品				
再生粉せっけん供給量	2,279 kg	←	2,409 kg	△ 130 kg
再生液体せっけん供給量	1,020 L	←	1,522 L	△ 502 L
再生ティシュ供給数	3,633 袋	←	4,316 袋	△ 683 袋
再生トイレロール供給数	10,243 袋	←	10,925 袋	△ 682 袋
地域資源活用品				
間伐材利用紙（A4･2500枚）	39 ケース	←	58 ケース	△ 19 ケース
購入拠点箇所	19 箇所	←	19 箇所	0 箇所
3．リサイクル事業				
廃食用油供給量	41,130 kg	←	48,570 kg	△ 7,440 kg
牛乳パック供給量	378,410 kg	←	321,270 kg	＋ 57,140 kg
4．住まいづくり事業				
コミュニティ住宅整備事業	0 件	←	0 件	0 件
小型雨水貯留槽設置	2 件	←	3 件	△ 1 件
大型雨水利用システム設置	4 件	←	0 件	0 件
家庭用太陽熱温水器設置	1 件	←	0 件	＋ 1 件
法人用太陽熱温水器設置	1 件	←	1 件	0 件
薪ストーブ・ペレットストーブ	0 件	←	0 件	0 件
木製サッシ設置	0 件	←	1 件	△ 1 件
その他	22 件	←	18 件	＋ 4 件
5．地域づくり事業				
地域づくりプロジェクト	5 件	←	5 件	0 件
講師・研修・委員受託	20 件	←	20 件	0 件

第2号議案　2018年度活動決算

1. 活動計算書

2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日まで

科目	2018年度実績	2017年度実績	前年度比	備考
Ⅰ．経常収益				
１．受取会費				
運営会員受取会費	147,000	144,000	＋ 3,000	運営会費 1,000円×147口
賛助会員受取会費	129,000	123,000	＋ 6,000	賛助会費 3,000円×43口
２．受取寄付金				
一般寄付	789,333	301,555	＋ 487,778	寄付24件
事業指定寄付	36,000	43,700	△ 7,700	あまいろ発！市民メディアチャレンジ等
３．受取補助金	463,000	450,000	＋ 13,000	滋賀県地域エネルギー活動支援補助金
４．事業収益				
Ａ．共同購入事業	20,009,911	19,948,361	＋ 61,550	せっけん、ティシュ、トイレットペーパー、お米、菜種油等
Ｂ．リサイクル事業	12,222,667	11,581,300	＋ 641,367	廃食油、牛乳パック、アルミ缶
Ｃ．住まいづくり事業	9,969,572	7,329,937	＋ 2,639,635	リフォーム工事、雨水利用工事、太陽熱利用工事、薪ストーブ等
Ｄ．地域づくり事業	2,191,384	3,361,060	△ 1,169,676	小さな自然再生事業、マザーレイクフォーラム運営補助、講演等
Ｅ．その他事業	524,612	458,532	＋ 66,080	合併浄化槽管理維持指導料等
Ｆ．売上値引	0	△ 665	＋ 665	
５．その他収益				
受取利息	1,238	1,319	△ 81	
その他収入	260,102	9,142	＋ 250,960	
経常収益計	46,743,819	43,751,241	＋ 2,992,578	
Ⅱ．経常費用				
１．事業費				
①事業原価	26,620,883	24,839,169	＋ 1,781,714	商品原価、原材料、作業委託料等
②人件費	11,565,768	11,627,016	△ 61,248	※次頁参照
③その他経費	7,818,968	7,301,699	＋ 517,269	※次頁参照
事業費計	46,005,619	43,767,884	＋ 2,237,735	
経常費用計	46,005,619	43,767,884	＋ 2,237,735	
当期経常増減額	738,200	△ 16,643	＋ 754,843	
Ⅲ．経常外収益	0	0	0	
Ⅳ．経常外費用	9,522	0	＋ 9,522	
当期正味財産増減額	728,678	△ 16,643		
前期繰越正味財産額	6,431,243	6,447,886		
次期繰越正味財産額	7,159,921	6,431,243		（設立時寄付 3,129,780円含む）

≪人件費及びその他経費内訳≫

科目	2018年度実績	2017年度実績	前年度比	備考
人件費				
役員報酬	3,130,000	3,130,000	0	常勤役員報酬・賞与
給料手当	5,360,000	5,360,000	0	常勤職員給与・賞与
雑給	985,244	892,740	＋ 92,504	アルバイト賃金
法定福利費	1,385,727	1,421,316	△ 35,589	社会保険料
福利厚生費	704,797	822,960	△ 118,163	職員通勤費、共済掛金等
人件費計	11,565,768	11,627,016	△ 61,248	
その他経費				
会員活動費	515,054	564,169	△ 49,115	住まいづくり活動費、あまいろ探偵団活動費等
旅費交通費	182,089	130,390	＋ 51,699	出張旅費、有料道路代金、理事交通費等
通信費	144,946	152,533	△ 7,587	電話、ＦＡＸ、インターネット、切手等
会議費	4,000	9,380	△ 5,380	理事会会場費等
減価償却費	262,025	68,954	＋ 193,071	廃食用油回収用軽トラック
地代家賃	1,972,800	1,972,800	0	事務所・倉庫家賃
保険料	279,370	245,430	＋ 33,940	自動車保険料等
修繕費	12,053	97,740	△ 85,687	住宅工事修繕費等
水道光熱費	146,298	151,426	△ 5,128	事務所電気代、水道代、灯油代等
車両運搬費	1,280,849	962,858	＋ 317,991	車両燃料代、車検代、タイヤ代等
消耗品費	136,107	128,228	＋ 7,879	消耗資材
租税公課	968,060	877,490	＋ 90,570	消費税、車両重量税、印紙税等
荷造運賃	796,576	538,670	＋ 257,906	商品送料、郵送代金等
事務用品費	461,328	602,212	△ 140,884	コピー料金、事務用品等
広告宣伝費	5,871	30,802	△ 24,931	イベント協賛、サンプル品等
支払手数料	445,072	501,424	△ 56,352	振込手数料、販売手数料、情報処理手数料等
諸会費	127,000	176,000	△ 49,000	関西ミルクロードの会、リサイクルせっけん協会、滋賀グリーン購入ネットワーク等
貸倒引当金繰入	7,091	18,700	△ 11,609	
雑損失	0	100	△ 100	
法人税等	72,379	72,393	△ 14	法人税、住民税及び事業税
その他経費計	7,818,968	7,301,699	＋ 517,269	

2. 貸借対照表

2019 年 3 月 31 日現在

科目	金額		
Ⅰ．資産の部			
１．流動資産			
現金	167,737		
預金	19,511,955		
供給未収金	3,114,942		
商品	2,662,309		
貯蔵品	60,610		
前払費用	194,400		
未収金	1,882,568		
貸倒引当金	△ 53,000		
流動資産合計		27,541,521	
２．固定資産			
（１）有形固定資産			
車両運搬具	1		
（２）投資その他資産			
出資金	62,000		
敷金	180,000		
預託金	11,310		
固定資産合計		253,311	
資産合計			27,794,832
Ⅱ．負債の部			
１．流動負債			
買掛金	3,816,557		
未払費用	1,066,864		
前受金	2,279,573		
預り金	259,717		
未払法人税等	72,200		
流動負債合計		7,494,911	
２．固定負債			
長期借入金	10,000,000		
碧いびわ湖基金借入金	2,660,000		
退職給付引当金	480,000		
固定負債合計		13,140,000	
負債合計			20,634,911
Ⅲ．正味財産の部			
１．一般正味財産			
前期繰越正味財産		6,431,243	
当期正味財産増加額		728,678	
正味財産合計			7,159,921
負債及び正味財産合計			27,794,832

3. 財産目録

2019 年 3 月 31 日現在

科　　目	金　　額		
Ⅰ．資産の部			
1．流動資産			
（1） 現金			
現金手許有高	167,737		
（2） 預貯金			
① 普通預金			
滋賀銀行　安土支店	5,636,334		
グリーン近江農協 安土支店	8,520		
近畿労働金庫 八日市支店	336,471		
② 郵便振替			
大阪貯金局事務センター	177,780		
③ 定期預金			
滋賀銀行　安土支店	12,272,779		
④ 定期積立			
滋賀銀行　安土支店	600,000		
滋賀銀行　安土支店	480,071		
（3） 供給未収金	3,114,942		
（4） 商品	2,662,309		
（5） 貯蔵品			
包装資材等	60,610		
（6） 前払費用			
翌年度4月分家賃	194,400		
（7） 未収入金			
委託事業等	1,882,568		
（8） 貸倒引当金			
当期繰入額	△ 53,000		
流動資産合計		27,541,521	
2．固定資産			
（1） 車両運搬具			
廃食用油回収用軽トラック	1		
（1） 出資金			
① せっけんの街共有者の会	50,000		
③ リサイクルせっけん協会	12,000		
（2） 敷金			
家賃敷金	180,000		
（3） 預託金			
自動車リサイクル料金	11,310		
固定資産合計		253,311	
資産合計			27,794,832

科　　目	金　　額		
Ⅱ．負債の部			
1．流動負債			
（1） 買掛金	3,816,557		
（2） 未払費用			
① 近江八幡税務署	497,100		
② ㈲大野石油	56,650		
③ 日本郵便㈱	111,905		
④ その他	401,209		
（3） 前受金			
① 工事前受金	2,000,000		
② 委託業務前受金	205,200		
③ その他	74,373		
（4） 預り金			
① 源泉所得税	31,470		
② 社会保険料	208,810		
③ その他	19,437		
（5） 未払法人税等	72,200		
流動負債合計		7,494,911	
2．固定負債			
（1） 長期借入金	10,000,000		
（2） 碧いびわ湖基金借入金	2,660,000		
（3） 退職金給付引当金	480,000		
固定負債合計		13,140,000	
負債合計			20,634,911
正味財産			7,159,921
負債・正味財産計			27,794,832

4. 財務諸表の注記

１．重要な会計方針

計算書類の作成は、ＮＰＯ法人会計基準によっています。

（１）棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による

（２）固定資産の減価償却の方法

・有形固定資産　　定率法を採用しています。

・無形固定資産　　定額法を採用しています。

（３）引当金の計上基準

・貸倒引当金ー債権の貸倒による損失に備えるため、法人税法の法定率で回収不能見込み額を計上しています。

・退職給付引当金ー役員の退職慰労金の支給に備えるため要支給額を計上しています。

（４）消費税の会計処理

消費税の会計処理は、税込方式によっています。

２．固定資産の増減内訳　（単位：円）

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価格
有形固定資産						
車両運搬具	330,980			330,980	330,979	1
無形固定資産						
出資金	62,000			62,000		62,000
敷金	180,000			180,000		180,000
預託金	11,310			11,310		11,310
計	253,310	0	0	253,310	0	253,310
合計	584,290	0	0	584,290	330,979	253,311

３．借入金の増減内訳　（単位：円）

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	10,000,000			10,000,000
碧いびわ湖基金借入金	2,660,000			2,660,000
合計	12,660,000	0	0	12,660,000

監査報告書

２０１９年5月１０日

特定非営利活動法人　碧いびわ湖
代表理事　村上 悟 様

監事　浅野 [redacted]
監事　辻
監事　藤井

特定非営利活動法人碧いびわ湖の２０１８年度（２０１８年4月1日から２０１９年3月３１日まで）の事業報告書及び計算書類（貸借対照表、収支計算書および財産目録）について、２０１９年5月１０日、碧いびわ湖事務所にて監査を行いました。

理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席して必要と認める場合には質問を行い、また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問等の手続きを行いました。

監査の結果、法人の業務は適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められました。

よって私たちは、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人碧いびわ湖の２０１９年3月３１日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況、及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認めます。

第2号議案　2019年度活動決算

1. 活動計算書

2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで

科目	2019年度実績	2018年度実績	前年度比	備考
Ⅰ．経常収益				
１．受取会費				
運営会員受取会費	132,000	147,000	△ 15,000	運営会費 1,000円×132口
賛助会員受取会費	111,000	129,000	△ 18,000	賛助会費 3,000円×37口
２．受取寄付金				
一般寄付	250,792	789,333	△ 538,541	寄付28件
事業指定寄付	1,159,500	36,000	＋ 1,123,500	みんなの休憩室ｸﾗｳﾄﾞﾌｧﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ
３．受取助成金	1,150,000		＋ 1,150,000	琵琶湖創発自治プロジェクト 牛乳パックリサイクル学習
４．受取補助金		463,000	△ 463,000	
５．事業収益				
Ａ．共同購入事業	20,107,727	20,009,911	＋ 97,816	トイレットペーパー、ティシュ、せっけん、お米、みかん等
Ｂ．リサイクル事業	12,217,498	12,222,667	△ 5,169	牛乳パック、廃食油、アルミ缶
Ｃ．住まいづくり事業	10,275,102	9,969,572	＋ 305,530	リフォーム工事、太陽熱温水器工事等
Ｄ．地域づくり事業	2,854,044	2,191,384	＋ 662,660	守山ほたる再生プロジェクト、ﾏｻﾞｰﾚｲｸﾌｫｰﾗﾑ運営補助 等
Ｅ．その他事業	525,856	524,612	＋ 1,244	合併浄化槽管理維持指導料等
６．その他収益				
受取利息	1,282	1,238	＋ 44	
その他収入	42,764	260,102	△ 217,338	
経常収益計	48,827,565	46,743,819	＋ 2,083,746	
Ⅱ．経常費用				
１．事業費				
①事業原価	28,179,071	26,620,883	＋ 1,558,188	商品原価、原材料、作業委託料等
②人件費	12,180,507	11,565,768	＋ 614,739	※次頁参照
③その他経費	8,604,820	7,818,968	＋ 785,852	※次頁参照
事業費計	48,964,398	46,005,619	＋ 2,958,779	
経常費用計	48,964,398	46,005,619	＋ 2,958,779	
当期経常増減額	△ 136,833	738,200	△ 875,033	
Ⅲ．経常外収益	0	0	0	
Ⅳ．経常外費用	0	9,522	△ 9,522	
当期正味財産増減額	△ 136,833	728,678		
前期繰越正味財産額	7,159,921	6,431,243		
次期繰越正味財産額	7,023,088	7,159,921		（設立時寄付 3,129,780円含む）

≪人件費及びその他経費内訳≫

科目	2019年度実績	2018年度実績	前年度比	備考
人件費				
役員報酬	3,239,000	3,130,000	＋ 109,000	常勤役員報酬・賞与
給料手当	5,546,000	5,360,000	＋ 186,000	常勤職員給与・賞与
雑給	1,210,134	985,244	＋ 224,890	アルバイト賃金
法定福利費	1,447,435	1,385,727	＋ 61,708	社会保険料
福利厚生費	737,938	704,797	＋ 33,141	職員通勤費、共済掛金等
人件費計	12,180,507	11,565,768	＋ 614,739	
その他経費				
会員活動費	1,011,278	515,054	＋ 496,224	みんなの休憩室プロジェクト、あまいろ探偵団 活動費等
旅費交通費	171,625	182,089	△ 10,464	出張旅費、有料道路代金、理事交通費等
通信費	156,978	144,946	＋ 12,032	電話、ＦＡＸ、インターネット、切手等
会議費	8,907	4,000	＋ 4,907	総会・理事会会場費等
減価償却費	0	262,025	△ 262,025	
地代家賃	1,998,000	1,972,800	＋ 25,200	事務所・倉庫家賃
保険料	306,970	279,370	＋ 27,600	自動車保険料等
委託費	436,866	0	＋ 436,866	データベース改良費（軽減税率対応）
修繕費	0	12,053	△ 12,053	
水道光熱費	123,790	146,298	△ 22,508	事務所電気代、水道代、灯油代等
車両運搬費	1,128,025	1,280,849	△ 152,824	車両燃料代、車検・整備代、タイヤ代等
消耗品費	107,182	136,107	△ 28,925	消耗資材
租税公課	1,170,080	968,060	＋ 202,020	消費税、車両重量税、印紙税等
荷造運賃	696,334	796,576	△ 100,242	商品送料、郵送代金等
事務用品費	666,258	461,328	＋ 204,930	コピー代、輸転機費用、事務用品等
広告宣伝費	539	5,871	△ 5,332	サンプル品
支払手数料	462,264	445,072	＋ 17,192	振込手数料、販売手数料、情報処理手数料等
諸会費	67,000	127,000	△ 60,000	滋賀グリーン活動ネットワーク、リサイクルせっけん協会等
貸倒引当金繰入	18,000	7,091	＋ 10,909	
雑損失	2,340	0	＋ 2,340	
法人税等	72,384	72,379	＋ 5	法人税、住民税及び事業税
その他経費計	8,604,820	7,818,968	＋ 785,852	

2. 貸借対照表

2020 年 3 月 31 日現在

科目	金額		
Ⅰ．資産の部			
１．流動資産			
現金	364,982		
預金	15,514,152		
供給未収金	3,784,016		
商品	2,161,144		
貯蔵品	36,676		
前払費用	194,400		
未収金	2,765,042		
貸倒引当金	△ 71,000		
流動資産合計		24,749,412	
２．固定資産			
（１）有形固定資産			
車両運搬具	1		
（２）投資その他資産			
出資金	62,000		
敷金	180,000		
預託金	11,310		
固定資産合計		253,311	
資産合計			25,002,723
Ⅱ．負債の部			
１．流動負債			
買掛金	4,041,634		
未払費用	594,644		
前受金	291,627		
預り金	164,430		
未払法人税等	72,200		
未払消費税	655,100		
流動負債合計		5,819,635	
２．固定負債			
長期借入金	10,000,000		
碧いびわ湖基金借入金	1,560,000		
退職給付引当金	600,000		
固定負債合計		12,160,000	
負債合計			17,979,635
Ⅲ．正味財産の部			
１．一般正味財産			
前期繰越正味財産		7,159,921	
当期正味財産増加額		△ 136,833	
正味財産合計			7,023,088
負債及び正味財産合計			25,002,723

3. 財産目録

2020 年 3 月 31 日現在

科　　目	金　　額		
Ⅰ．資産の部			
1．流動資産			
（1） 現金			
現金手許有高	364,982		
（2） 預貯金			
① 普通預金			
滋賀銀行　安土支店	3,295,186		
〃　〃	212,063		
グリーン近江農協 安土支店	8,520		
近畿労働金庫 八日市支店	335,933		
② 郵便振替			
大阪貯金局事務センター	139,317		
③ 定期預金			
滋賀銀行　安土支店	10,773,023		
④ 定期積立			
滋賀銀行　安土支店	150,000		
滋賀銀行　安土支店	600,110		
（3） 供給未収金	3,784,016		
（4） 商品	2,161,144		
（5） 貯蔵品			
包装資材等	36,676		
（6） 前払費用			
翌年度4月分家賃	194,400		
（7） 未収入金			
委託事業等	2,765,042		
（8） 貸倒引当金			
当期繰入額	△ 71,000		
流動資産合計		24,749,412	
2．固定資産			
（1） 車両運搬具			
廃食用油回収用軽トラック	1		
（1） 出資金			
① せっけんの街共有者の会	50,000		
③ リサイクルせっけん協会	12,000		
（2） 敷金			
家賃敷金	180,000		
（3） 預託金			
自動車リサイクル料金	11,310		
固定資産合計		253,311	
資産合計			25,002,723

科　　目	金　　額		
Ⅱ．負債の部			
1．流動負債			
（1） 買掛金	4,041,634		
（2） 未払費用			
① みんなの休憩室家賃	156,000		
② ㈲大野石油	66,022		
③ 日本郵便㈱	118,593		
④ その他	254,029		
（3） 前受金			
① 委託業務前受金	209,020		
② その他	82,607		
（4） 預り金			
① 源泉所得税	33,390		
② 社会保険料	108,945		
③ その他	22,095		
（5） 未払消費税等	655,100		
（6） 未払法人税等	72,200		
流動負債合計		5,819,635	
2．固定負債			
（1） 長期借入金	10,000,000		
（2） 碧いびわ湖基金借入金	1,560,000		
（3） 退職金給付引当金	600,000		
固定負債合計		12,160,000	
負債合計			17,979,635
正味財産			7,023,088
負債・正味財産計			25,002,723

4. 財務諸表の注記

１．重要な会計方針

計算書類の作成は、ＮＰＯ法人会計基準によっています。

（１）棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による

（２）固定資産の減価償却の方法

・有形固定資産　　定率法を採用しています。

・無形固定資産　　定額法を採用しています。

（３）引当金の計上基準

・貸倒引当金ー債権の貸倒による損失に備えるため、法人税法の法定率で回収不能見込み額を計上しています。

・退職給付引当金ー役員の退職慰労金の支給に備えるため要支給額を計上しています。

（４）消費税の会計処理

消費税の会計処理は、税込方式によっています。

２．固定資産の増減内訳　（単位：円）

科目	期首取得価額	取得	減少	減価償却累計額	期末帳簿価格
有形固定資産					
車両運搬具	330,980			330,979	1
無形固定資産					
出資金	62,000				62,000
敷金	180,000				180,000
預託金	11,310				11,310
合計	253,310	0	0	0	253,310

３．借入金の増減内訳　（単位：円）

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	10,000,000			10,000,000
碧いびわ湖基金借入金	2,660,000	50,000	1,150,000	1,560,000
合計	12,660,000	50,000	1,150,000	11,560,000

監査報告書

２０２０年5月１１日

特定非営利活動法人　碧いびわ湖
代表理事　村上 悟 様

監事　浅野　博
監事　辻　　貴
監事　藤井　純

特定非営利活動法人碧いびわ湖の２０１９年度（２０１９年4月1日から２０２０年3月３１日まで）の事業報告書及び計算書類（貸借対照表、収支計算書および財産目録）について、２０２０年5月１１日、碧いびわ湖事務所にて監査を行いました。

理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席して必要と認める場合には質問を行い、また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問等の手続きを行いました。

監査の結果、法人の業務は適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められました。

よって私たちは、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人碧いびわ湖の２０２０年3月３１日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況、及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認めます。

第2号議案　2020年度活動決算

1. 活動計算書

2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで

科目	2020年度実績	2019年度実績	前年度比	備考
Ⅰ．経常収益				
１．受取会費				
運営会員受取会費	146,000	132,000	＋ 14,000	運営会費 1,000円×146口
賛助会員受取会費	159,000	111,000	＋ 48,000	賛助会費 3,000円×53口
２．受取寄付金				
一般寄付	420,190	250,792	＋ 169,398	寄付45名
事業指定寄付	0	1,159,500	△ 1,159,500	
３．受取助成金	0	1,150,000	△ 1,150,000	
４．事業収益				
Ａ．共同購入事業	19,476,096	20,107,727	△ 631,631	トイレットペーパー、ティシュ、せっけん、お米、みかん等
Ｂ．リサイクル事業	12,534,793	12,217,498	＋ 317,295	牛乳パック、廃食油、アルミ缶
Ｃ．住まいづくり事業	2,281,540	10,275,102	△ 7,993,562	雨水タンク設置工事、太陽熱利用システム設置工事等
Ｄ．地域づくり事業	3,673,904	2,854,044	＋ 819,860	守山ほたる再生プロジェクト、ﾏｻﾞｰﾚｲｸﾌｫｰﾗﾑ運営補助 等
Ｅ．その他事業	483,340	525,856	△ 42,516	合併浄化槽管理維持指導料等
５．その他収益				
受取利息	1,139	1,282	△ 143	
その他収入	2,933,812	42,764	＋ 2,891,048	持続化給付金、家賃支援給付金等
経常収益計	42,109,814	48,827,565	△ 6,717,751	
Ⅱ．経常費用				
１．事業費				
①事業原価	22,367,474	28,179,071	△ 5,811,597	商品原価、原材料、作業委託料等
②人件費	12,581,095	12,180,507	＋ 400,588	※次頁参照
③その他経費	6,853,544	8,604,820	△ 1,751,276	※次頁参照
事業費計	41,802,113	48,964,398	△ 7,162,285	
経常費用計	41,802,113	48,964,398	△ 7,162,285	
当期経常増減額	307,701	△ 136,833	＋ 444,534	
Ⅲ．経常外収益	0	0	0	
Ⅳ．経常外費用	0	0	0	
当期正味財産増減額	307,701	△ 136,833		
前期繰越正味財産額	7,023,088	7,159,921		
次期繰越正味財産額	7,330,789	7,023,088		（設立時寄付 3,129,780円含む）

≪人件費及びその他経費内訳≫

科目	2020年度実績	2019年度実績	前年度比	備考
人件費				
役員報酬	3,391,000	3,239,000	＋ 152,000	常勤役員報酬・賞与
給料手当	5,830,000	5,546,000	＋ 284,000	常勤職員給与・賞与
雑給	1,196,493	1,210,134	△ 13,641	アルバイト賃金
法定福利費	1,507,654	1,447,435	＋ 60,219	社会保険料
福利厚生費	655,948	737,938	△ 81,990	職員通勤費、共済掛金等
人件費計	12,581,095	12,180,507	＋ 400,588	
その他経費				
会員活動費	56,380	1,011,278	△ 954,898	あまいろ探偵団 活動費等
旅費交通費	79,140	171,625	△ 92,485	出張旅費、有料道路代金等
通信費	162,611	156,978	＋ 5,633	電話、ＦＡＸ、インターネット、切手等
会議費	0	8,907	△ 8,907	
減価償却費	0	0	0	
地代家賃	2,016,000	1,998,000	＋ 18,000	事務所・倉庫家賃
保険料	241,180	306,970	△ 65,790	自動車保険料等
委託費	0	436,866	△ 436,866	
修繕費	19,019	0	＋ 19,019	工事修繕費
水道光熱費	120,566	123,790	△ 3,224	事務所電気代、水道代、灯油代等
車両運搬費	1,098,910	1,128,025	△ 29,115	車両燃料代、車検・整備代等
消耗品費	63,359	107,182	△ 43,823	消耗資材
租税公課	1,209,540	1,170,080	＋ 39,460	消費税、車両重量税、印紙税等
荷造運賃	661,007	696,334	△ 35,327	商品送料、郵送代金等
事務用品費	444,274	666,258	△ 221,984	コピー代、輪転機保守費用、事務用品等
広告宣伝費	21,954	539	＋ 21,415	サンプル品等
支払手数料	482,280	462,264	＋ 20,016	振込手数料、販売手数料、情報処理手数料等
諸会費	127,000	67,000	＋ 60,000	関西ミルクロードの会、滋賀グリーン活動ネットワーク、リサイクルせっけん協会等
貸倒引当金繰入	△ 30,000	18,000	△ 48,000	
雑損失	7,960	2,340	＋ 5,620	
法人税等	72,364	72,384	△ 20	法人税、住民税及び事業税
その他経費計	6,853,544	8,604,820	△ 1,751,276	

2. 貸借対照表

2021 年 3 月 31 日現在

科目	金額		
Ⅰ．資産の部			
１．流動資産			
現金	240,037		
預金	17,565,070		
供給未収金	2,263,692		
商品	2,295,011		
貯蔵品	73,632		
前払費用	198,000		
未収金	1,582,804		
貸倒引当金	△ 41,000		
流動資産合計		24,177,246	
２．固定資産			
（１）有形固定資産			
車両運搬具	1		
（２）投資その他資産			
出資金	62,000		
敷金	180,000		
預託金	11,310		
固定資産合計		253,311	
資産合計			24,430,557
Ⅱ．負債の部			
１．流動負債			
買掛金	3,384,878		
未払費用	264,595		
前受金	319,110		
預り金	179,285		
未払法人税等	72,200		
未払消費税	599,700		
流動負債合計		4,819,768	
２．固定負債			
長期借入金	10,000,000		
碧いびわ湖基金借入金	1,560,000		
退職給付引当金	720,000		
固定負債合計		12,280,000	
負債合計			17,099,768
Ⅲ．正味財産の部			
１．一般正味財産			
前期繰越正味財産		7,023,088	
当期正味財産増加額		307,701	
正味財産合計			7,330,789
負債及び正味財産合計			24,430,557

3. 財産目録

2021 年 3 月 31 日現在

科　　目	金　　額		
Ⅰ．資産の部			
1．流動資産			
（1） 現金			
現金手許有高	240,037		
（2） 預貯金			
① 普通預金			
滋賀銀行　安土支店	3,340,658		
〃　〃	56,064		
グリーン近江農協 安土支店	8,520		
近畿労働金庫 八日市支店	335,385		
② 郵便振替			
大阪貯金局事務センター	380,373		
③ 定期預金			
滋賀銀行　安土支店	12,123,932		
④ 定期積立			
滋賀銀行　安土支店	600,000		
〃　〃	720,138		
（3） 供給未収金	2,263,692		
（4） 商品	2,295,011		
（5） 貯蔵品			
包装資材等	73,632		
（6） 前払費用			
翌年度4月分家賃	198,000		
（7） 未収入金			
委託事業等	1,582,804		
（8） 貸倒引当金			
当期繰入額	△ 41,000		
流動資産合計		24,177,246	
2．固定資産			
（1） 車両運搬具			
廃食用油回収用軽トラック	1		
（1） 出資金			
① せっけんの街共有者の会	50,000		
③ リサイクルせっけん協会	12,000		
（2） 敷金			
家賃敷金	180,000		
（3） 預託金			
自動車リサイクル料金	11,310		
固定資産合計		253,311	
資産合計			24,430,557

科　　目	金　　額		
Ⅱ．負債の部			
1．流動負債			
（1） 買掛金	3,384,878		
（2） 未払費用			
① 暮らシフト研究所	51,337		
② ㈲大野石油	64,209		
③ 日本郵便㈱	99,385		
④ その他	49,664		
（3） 前受金			
① 委託業務前受金	209,020		
② その他	110,090		
（4） 預り金			
① 源泉所得税	38,140		
② 社会保険料	113,328		
③ その他	27,817		
（5） 未払消費税等	599,700		
（6） 未払法人税等	72,200		
流動負債合計		4,819,768	
2．固定負債			
（1） 長期借入金	10,000,000		
（2） 碧いびわ湖基金借入金	1,560,000		
（3） 退職金給付引当金	600,000		
固定負債合計		12,160,000	
負債合計			16,979,768
正味財産			7,450,789
負債・正味財産計			24,430,557

4. 財務諸表の注記

１．重要な会計方針

計算書類の作成は、ＮＰＯ法人会計基準によっています。

（１）棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による

（２）固定資産の減価償却の方法

・有形固定資産　　定率法を採用しています。

・無形固定資産　　定額法を採用しています。

（３）引当金の計上基準

・貸倒引当金ー債権の貸倒による損失に備えるため、法人税法の法定率で回収不能見込み額を計上しています。

・退職給付引当金ー役員の退職慰労金の支給に備えるため要支給額を計上しています。

（４）消費税の会計処理

消費税の会計処理は、税込方式によっています。

２．事業別損益の状況　（単位：円）

勘定科目	共同購入事業	リサイクル事業	住まいづくり事業	地域づくり事業	その他事業	非収益部門	合　計
①運営会費						146,000	146,000
②賛助会費						159,000	159,000
③寄付金収入						420,190	420,190
④事業収入	19,476,096	2,281,540	12,534,793	3,673,904	483,340		38,449,673
⑤雑収入他					2,934,951		2,934,951
経常収益計	19,476,096	2,281,540	12,534,793	3,673,904	3,418,291	725,190	42,109,814
①事業原価	14,863,532	1,157,706	4,482,664	1,828,145	35,427	0	22,367,474
②事業費							0
人件費	6,290,547	754,867	4,151,761	1,258,110	125,810	0	12,581,095
その他	3,390,840	406,900	2,237,954	678,168	67,318		6,781,180
経常費用計	24,544,919	2,319,473	10,872,379	3,764,423	228,555	0	41,729,749
経常損益増減高	-5,068,823	-37,933	1,662,414	-90,519	3,189,736	725,190	380,065

３．固定資産の増減内訳　（単位：円）

科目	期首取得価額	取得	減少	減価償却累計額	期末帳簿価格
有形固定資産					
車両運搬具	330,980			330,979	1
無形固定資産					
出資金	62,000				62,000
敷金	180,000				180,000
預託金	11,310				11,310
合計	253,310	0	0	0	253,310

４．借入金の増減内訳　（単位：円）

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	10,000,000			10,000,000
碧いびわ湖基金借入金	1,560,000			1,560,000
合計	11,560,000	0	0	11,560,000

監査報告書

２０２１年5月１０日

特定非営利活動法人　碧いびわ湖
代表理事　村上 悟 様

監事　浅野　博
監事　辻　　貴
監事　藤井　純

特定非営利活動法人碧いびわ湖の２０２０年度（２０２０年４月１日から２０２１年３月３１日まで）の事業報告書及び計算書類（貸借対照表、収支計算書および財産目録）について、２０２１年５月１０日、碧いびわ湖事務所にて監査を行いました。

理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席して必要と認める場合には質問を行い、また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問等の手続きを行いました。

監査の結果、法人の業務は適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められました。

よって私たちは、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人碧いびわ湖の２０２１年３月３１日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況、及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認めます。